

幼稚園の降誕劇(ページェント)でも行われるお話の中で、夜野宿していた羊飼いたちに天使が現れて「すべての民に与えられる大きな喜びをあなた方に伝える」(ルカによる福音書2章10節)とあります。すべての人々

二〇二三年のクリスマスを迎える季節となりました。毎年のようにめぐるクリスマスです。いつものようにクリスマスには、『クリスマスおめでとう』と共にあいさつを交わします。しかし、ときどき思うのですが、クリスマスの何が一体「おめでとう」なのでしょう。毎年めぐりくる事柄であるがために、お決まりの言葉になっていることはないでしょうか。

当時の羊飼いは、世間から低い身分として差別されていました。なので、人々が暮らす町や村に入ることは嫌がられていたのです。

しかし、イエス様の誕生をま

に与えられる大きな喜びが、天使によってもたらされたそれが、クリスマスのメッセージです。神から全人類に与えられる大きな喜びの内容は救い主として生まれたイエス様のことです。

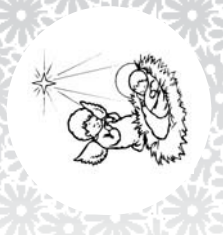
家畜小屋の動物の餌を入れる飼料桶の中に寝ている乳飲み子として生まれてくださったのです。天の栄光に包まれている方が、誰も生まれることのない場所にお生まれになり、そこまで低くなって来てくださったのです。

ず知らされたのは、羊飼いでした。そして、羊飼いたちが急いで出かけることができたところが、宮殿でもなく、人々がいる家の中でもなく、他でもなく、家畜が住む家畜小屋の飼料桶の中に眠る乳飲み子がいるこの場所だったのです。

実は、イエス様は、誕生の時だけでなく、その生涯そのものが低くなられ、弱い者、貧しい者の友となられた方でした。フィリピの信徒への手紙2章6節以下に、「キリストは神の身分でありながら、神と等しいものであることに固執しようとは思わず、かえって自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じものになりました。人間の姿で現れ、へりくだって、死に至る

## クリスマスの驚きの回復

松代教会牧師 木原 盛行



# おとずれ

日本キリスト教団

松代教会

TEL 二七八―八二五二

FAX 二七八―一二九二

印刷 ハニウ印刷所

### 聖句

「言は肉となって、わたしたちの間に宿られた。私たちがその栄光を見た。それは父の独り子としての栄光であって恵みと真理とに満ちていた。」

(ヨハネによる福音書 一章十四節)

まで、それも十字架の死に至るまで従順でした」と証しています。讃美歌でも「狐には穴があり、鳥には巣あれど、人の子には枕するところがない」とうたっています。

そして、このお方の生涯は、十字架の死をもって閉じることになりました。しかし、父なる神は、この御子を死の中に閉じ込めておくことをなさらず、三

日目に復活させてくださったのです。神であるお方(イエス様)が人間の姿を取り十字架への道を歩んだくださり、そして、死に勝利される道を開いてくださったのです。この方においてなされたすべての御業は、わたしたちに対する神の愛以外の何物でもありません。

それは「私」や「あなた」を救うためであり、「神の子」と

松代教会の  
**クリスマスのご案内**

**★クリスマス礼拝**  
12月24日(日)  
午前10時15分から

**★子どもの教会学校クリスマス礼拝**  
12月17日(日) 午後1時～  
イヴ礼拝、キャロリングは  
今年も中止となりました。

リモコンを操作していただいて昇降機が音もなく静かに階段を降りてくる。腰をおろして座ってから昇りのスイッチを押すと動き出す。安定した速度でゆっくりと昇る二十段の階段を安全に運んでくれる。スイッチの押す手をはなすと停止してくれる。そして礼拝に私を導いてくれる優れものである。礼拝堂まで杖と人の手をお借りしてたどり着く。定位置について礼拝のはじまる準備に入る。今日の聖書箇所や讃美歌の頁にしおりをはさみ、静かにはじまりを待つ。昇降機のおかげで今日も来られた事を有り難く思っ

して私達を豊かな人生へと招くためののです。これは真に驚くべき事柄です。

「クリスマスおめでとう」と言いながら、この驚きを忘れてしまっているのではないでしょうか。

イエス様が飼う葉桶に寝かせてられているということは、知識としてよく知っているのです。しかし、この私を愛するために、誰もがイエス様に会いに行かれ

## 優れものの階段昇降機

倉澤裕子

ているところである。

骨折して入院中にも週報を届けて頂いたり、婦人会の皆さんからクリスマスカードの寄せ書きを頂いたりして励ましていただき感謝でした。退院して早く礼拝に参加したいと思い続けておりましたが、あの階段を昇るのは心配だと思っていたところでした。昇降機の工事のことが週報に載っていましたので、早い完成を願っていました。入院一カ月は痛みに耐える日々でしたが、その痛みもとれてリハビリ専門の生活が始まりました。歩くことは人間の基本的なことであるのに、こんなに難し

るように、そこまで低くなってくださったということをし、心で受け止め、教会は、真の驚きを毎年取り戻さなければならないと思うのです。

あなたのために自らを低くして、私達を愛するために来て下さったイエスキリストを心から受け入れ、祝うクリスマスでありたいとおもいます。

「クリスマス  
おめでとうございます」



▲ 7月から利用されている階段昇降機

いものかと思いました。二本足でしっかり立って歩を進める何でもない事なのに、うまく歩けない情けない気持ちに鞭打ち、リハビリに精を出しています。今更ながら健康の有難みを噛みしめております。骨折したら寝たきりになると言われておりますが、寝たきりにもならず何とか独り暮らしが出来ていることは感謝すべきではないかと思っております。

私には居場所がある。教会の椅子が待っていてくれる。聖書には好きな箇所がいくつもありますが、イザヤ書に平和について書かれています。「主は国々の争いを裁き多くの民を戒められる。彼らは剣を打ち直して鍬とし槍を打ち直して鎌とする。国は国に向かって剣をあげず、もはや戦うことを学ばない。」(イザヤ二・一〜四) ロシアが仕掛けた戦争が一日も早く終結する事を祈るばかりです。

## 昇降機設置と礼拝へのお誘い

長谷川 浩 一



▲ とり回しのよい車椅子

松代教会ではこのたび、二階まで上がれる昇降機を設置し、二〇二三年七月から利用を開始しました。写真のとおり、階段に設置したレールに沿って専用の椅子が昇降するものです。

松代教会は、一九八一(昭和五十六)

年の新築に際し二階に礼拝堂を作りましたが、建築当時はあまり想像ができなかった少子高齢化が今は社会問題になっています。教会も例外ではなく礼拝者も年齢を重ね、「二階まで階段を上がれないから礼拝に出席しづらい」とか「エレベーターを設置できないか」などの声が、これまでにたびたび出されていたのでした。

今回教会が導入した昇降機は、車椅子のままでも乗れるものではありませんが、二階まで上がったあと昇降機の椅子から礼拝堂の椅子まで移動するための車椅子も準備しました。

足の不自由な方だけでなく、階段の上り下りに

少しでも難儀する方ならどなたでもご利用いただけますので、ぜひ、気軽にご出席ください。

なお、礼拝は、毎週日曜、午前十時一五分から始まりますので、十時ごろまでにはお越しいただき、昇降機の利用が必要な場合は、牧師か教会関係者に申し出てご利用ください。

また、出席されるときはあらかじめ連絡をいただいていると、よりスムーズにご案内できます。



# 松代幼稚園での日々

木 原 めぐみ

## 「ひかりのお城」

作詞 山川啓介

作曲 福田和禾子

昔 真田のおとのさま  
住んでたこの町  
今はわたしがほくが  
明日を見上げます  
いっぱい遊ぶ子  
いっぱい笑う子  
いっぱい夢見る子  
神様は大好き  
みんなみんな主さまうしてる  
松代幼稚園  
ひかりのお城です  
山に負けずに伸びるんだ  
長野の子どもの  
ぼくのわたしの元気が  
地球を回します。  
いっぱい友達  
いっぱいお祈り  
いっぱいありがとう  
神さまと約束  
みんなみんな今日も幸せ  
松代幼稚園 心のお城です

これは松代幼稚園の園歌です。

この曲は、二十五年ほど前、保護者会の講演で山川啓介先生を招いた際に「北風小僧の寒太郎」や「そうだったらいいのにな」などの作詞・作曲したお二人に作っていただいた曲です。大事に歌い続けていく素敵な歌ができ感謝しています。「松代幼稚園ってどんな園？」と聞かれたら、この歌詞の通りの子ども達がいる幼稚園ですと言えるでしょう。

毎日子どもの声を聴き、子ども達に囲まれている、それだけでとても幸せです。

前園長田中先生夫妻から引き継いで二十九年、地域に愛される幼稚園として歩むには、たくさんの方々を支えられ、守られて来たことを感じます。松代は、たくさんの歴史や自然が残る素敵なところですよ。九十四年目の幼稚園であるので、町の方々とお話しすると、「昔私が」「うちの子ども達もお世話になった」ということもよく耳にしました。

子ども達は、それぞれがかけがえない存在で、どの子も神様に愛され、神様からそれぞれ

に素敵な賜物（ギフト）を与えられています。それを生かして輝かせることができれば、自分だけでなく、周りの人たちのためにも生かすことができるはずだと願って保育を進めてきました。

聖書のお話を聞いたり、讃美歌を歌ったり、聖書のみ言葉を覚えたりするとともに、毎朝に、昼に、帰りに共に神様に感謝をしてお祈りをします。

年長にもなると、帰りにみんなの前で代表して今日あったこと、神様に伝えたいことをお祈りします。「今日はみんなでお散歩に行ってくることができ楽しかったです。」「お休みしている子が元気になって明日は幼稚園に来れますように。」「世界で起きている戦争のこと、災害のことにも目をとめて、「世界中の人を守ってください。」「とお祈りする子もいます。それが本当に大事なひと時です。卒園してしまうとお祈りをする生活から離れてしまうので、恥ずかしくお祈りしなくなってしまうようですが、つらいことや困ったときでも思い出して、神様とお祈りができればと願っています。

思い切り遊ぶ時と、心を静めてしずかに話を聞いたり歌を歌ったりできること、自分だけが良ければいいのではなく、お友達

のことを考えて過ごすことなど、毎日の生活の中で、培われて来たことです。そのために教職員みんなが、心をかけ、いろいろな経験ができるように考え、計画して子どもと喜び合いながら過ごしてきたように思います。

その一つが十七年前から園の特色として全園児で行ってきた劇遊びです。今年は「しょうぼうじどうしゃ じぶた」という絵本から劇遊びを作り上げて楽しんでできました。様々な表現遊びや運動遊び、オリジナルの歌を歌ったり、絵をかいたり、車を作ったり様々な経験を活かし十一月には、劇公開を行いました。二歳から六歳までの子どもたちが一緒に作り上げる劇遊びです。協調性や、創造性が身につくとともに、異年齢の関りも増え、家族の人たちも巻き込んでみんなが劇遊びのことで一つになれることが何よりもうれしく、一人一人の子どもの成長を感じる行事となっています。誰が主役でわき役ではなく、みんなが主役なのですから。

コロナ感染症によってこの三年は、関りを持つことが規制され、いろいろな人との関りの中で育つことが大事な時期に保育が思うようにできず行事も中止、制限の中で行われてきて、やっと今年になって、今まで通りに活動ができるようになって

きました。子どもの幼児期は、一度だけしかありません。その大事な時期にコロナ禍では、それが制限されましたが、子どもとゆっくり、じゅくり関り、過ごすことができたことは、実は、とても大事な時であったとも感じています。本当に大事なものは何だかわからなくなっている時代に、踏みとどまって見つめ直す良い機会でもありました。うまくいくことより、うまくいかないことのほうがたくさんあるのですが、それを十分に経験するべきなのが幼児期なのです。たくさん失敗をしてそれを乗り越え、工夫して前に進んでいきましょう。

どんな時でも、神様は必要なもの、時を与えてくださっていると感じます。回りの人に、神様に感謝して過ごす中で、自分一人ではなく、たくさんの人に支えられて生きていることを学んでいくのではないのでしょうか。いつまでも、子どもたちが光の子として歩んでいかれますように。





## 松代幼稚園の クリスマス行事について

◎クリスマス礼拝

12月15日(金)

★年長ページェント(降誕劇)公開

12月21日(木) 14:00～14:30  
(どなたでもご覧できます)

★こひつじクリスマス(未就園児)

・12月5日(火) 9:30～11:30

★卒園生クリスマス

(小学生のみ)

・12月16日(土)  
9:30～11:00



## 幼稚園での日々を振り返って

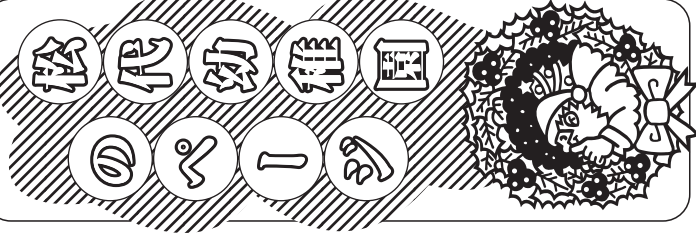
保護者 宮崎 美智子

長女が松代幼稚園に入園し、その後次女、長男と我が家の3人の子供たちがお世話になり、この3月に末っ子の長男が卒園を迎えます。長いようであつという間の6年間の幼稚園生活でした。

子供たちは幼稚園で先生方にあたたかく見守られ、やりたいことを自由に思いっきりやらせていただきました。日々レベルアップしていく工作やお絵描き。靴や

り遊びました。いつの間にかこんなことができるようになったんだ！と驚かされることが何度もありました。興味をもったことにより深く触れていくことは、本当に楽しかったです。また、苦手や不安に感じたことも、お友達と一緒に経験することで楽しさを感じられた時もありました。様々な経験を通して子供たち自身を感じ学んだこと、得られた

ズボンのポケットが砂だらけになるくらい思いっきり



自信は、この先につながる宝物になっていくと思います。

ゆつくりペースで育つ長女の成長に大きく不安を感じていた頃、松代幼稚園に出会いました。松代幼稚園に通い一人ひとりの個性の大切さや素晴らしさ、誰もがかけがえのない存在であると感じていく中で、次第に不安よりも、子供たちそれぞれの良さに気づけるようになってきたように思います。この子にはこんなにも良いところがある！と思うことができたことで、子育てがより豊かなものになっていきました。また、先生方が共に子供たちを

## 神様に導かれて

保育教諭 竹内

麻由美

私が松代幼稚園で働かせていただくようになって今年で10年目になります。松代幼稚園は叔父の卒園した園でもあり、私が学生の頃に実習させていただいた園でもあります。よく園長先生が職員に、神様に導かれたのだとお話して下さいます。このような縁を紡いで下さり、子ども達はもちろん、職員に対しても愛情溢れる園で過ごさせていただき、感謝の日々です。

さて、今年度の大きな変化というと、コロナが5類になり、以前のような生活が少しずつ戻っ

てきたという事でしよう。今まで

は制限も多く、「もつとこういう活動がしたいのに」「子ども達の成長を妨げているのでは」等と、もどかしさを感じることも多々ありました。すっかり元通りという訳にはいきませんが、参観や運動会等に多くの方に来ていただき、日々の楽しい事、自分の頑張りを皆さんにみていただけて、嬉しそうな子ども達でした。コロナ禍ではお散歩に出掛ける事でさえ難しい事でした。今のこの安心して園外に出掛けられる日常は、何て幸せな事なんだろうと痛感します。子ども達と一緒に、たくさんの幸せを噛みし



めた一年でした。

園恒例の劇遊びは、「しょうぼうじどうしゃじぶた」の絵本を元に活動しました。絵本の世界を味わい、絵画や制作活動、劇あそびを楽しんだ子ども達。消防署見学をさせていただき、町を歩きながら火の用心とかけ声をかけたりと、様々な活動を楽しみました。日々柔軟に適応したくましく過ごす子ども達。小さいけれど大きな力を秘めてるいじぶたの姿と重なります。「しょうぼうじどうしゃじぶた」は、周りの人と比べない事の大切さに気付かせてくれます。神様は一人ひとりに賜物をくださいました。人と比べる事なく、子ども達が愛情をいっぱいに受け大切にされているという心の満足感を、大いに感じられる生活ができるよう、今後も努めていきたいです。